



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2022年2月22日発行 第46号

2月も半ばを過ぎると朝起きたときも真っ暗でなくなり、夕方は5時を過ぎてもまだ明るく、昼の時間が少しずつ延びていることが実感として感じられるようになります。

本アカデミーの活動もコロナ感染症のオミクロン株により休講を余儀なくされていましたが、「まん延防止等重点措置」の島根県が解除されるにあたり、少しずつでも講座等の再開が叶うようお願いしたいと思っています。

◎ 夢いっぱい♪春まちコンサート！

アウトリーチ事業（音楽と音楽家の出前）で各施設を直接訪問し、生の音楽をお届けしてきました。しかし、コロナ感染症のオミクロン株の影響があり、すべての施設への訪問は叶いませんでした。その上に、各施設へ訪問していた出雲フィルハーモニーのメンバーが勢ぞろいし、「夢いっぱい♪春まちコンサート」をホールで開催予定でしたが、島根県にも「まん延防止等重点措置」が発出され、やむなくホール開催を中止いたしました。

すべての公演を中止するのは芸術の灯を絶やすことにも繋がりにかねないと考え、当日予定されていた演奏をDVD収録することにいたしました。収録することで、訪問できなかった施設やホール演奏を楽しみにしていただいた方へもお届けできることになり、演奏するメンバーの励みにもなりました。

収録当日の様子をお知らせします。最初は、本アカデミー講師（出雲フィルメンバー）によるアンサンブルです。

■Let's アンサンブル！

1. 金管三重奏（トランペット/ホルン/トロンボーン）

曲目：テ・デウム二長調《前奏曲》（シャルパンティエ作曲）

トランペットの鋭利な音源をホルンがやさしく包み込み、トロンボーンが全体を支える絶妙なアンサンブルでした。



2. ピアノ6手連弾（ピアニスト3人）

曲目：トルコ行進曲（モーツァルト作曲）

ピアニスト3人による連弾（6手）は珍しい取り組みですが、息の合った演奏と6手が所狭しと絡み合う光景が見どころでした。



3. 木管五重奏（フルート/オーボエ/クラリネット/ファゴット/ホルン）

曲目：3つの小品 第1曲アレグロ（イベール作曲）

4つの木管楽器と金管楽器のホルンで編成される五重奏は、それぞれが独特の音質で響き合うアンサンブルの魅力を披露していただきました。



4. ヴァイオリンとピアノのアンサンブル

裏面へ

曲目：ヴァイオリン・ソナタ第5番ハ長調 第1楽章（ベートーヴェン作曲）

出雲フィルのコンサートマスターが奏でる優雅なメロディーにピアノとの絶妙な競演を楽しませていただきました。

■チェンバーオーケストラ！

1.<花>のプロセッション

滝廉太郎の名曲をアレンジしたもので、チェンバーオーケストラのオープニングとして華々しく開演です。

2.オーケストラで聴く！みんなの校歌♪

今回は、塩冶小学校・大津小学校・窪田小学校の校歌を演奏しました。これからは機会があるごとに市内小中学校の校歌を披露していきたいと思います。

3.ボディパーカッション！

ブラジルのサンバのリズムに乗り、ボディパーカッションの解説を交えながらの演出に、場の雰囲気も和らぎノリノリの演奏でした。

4.オペラ「魔笛」セレクション

モーツァルトの名曲である「魔笛」の要所部分を抜粋したのですが、聴きどころはソプラノ歌手の難曲中の難曲と言われる highF に挑戦するところでしょうか…。

5.ミュージカル「アニー」から《トゥモロー》

フィナーレは、コロナ感染症が1日も早く解消し、未来が明るく開けることを願い、出演者全員による演奏で締めくくりました。

この演奏の収録後、各曲目に関わる解説とエピソードなどを加え、中井芸術監督による収録が行われました。編集作業は、事務局の森脇氏が担当し、これから時間をかけての作業が続きますが、いまから出来上がりが楽しみです。



つぶやき

落語家とアーティスト（演奏家）は、同じか…？ という疑問を抱いたことがあります。それは、落語家“立川談春”氏の対談番組を視聴したときのことで、氏曰く「落語は演技ではない。言葉だけでメロディーのように嘸す。正座して嘸すのは、足を見せないこと。要するに動きを封じることで聞き手の脳に訴えかけているのです。そのことで、聞き手は自由な想像力を働かすのです…」。この対談番組から、昨年、特別主位研究の講演講師としてお招きした“丸山桂介”氏の講演内容を思い出しました。丸山氏は、演奏するにあたって、楽譜を読み込み忠実な表現を目指すことが最も大切であると説かれました。そして、演奏姿勢にも注目され、ピアニストでもある“バレンボイム”氏の例を示していただきました。背筋をピンと伸ばし、手の動きは指を立てず（これは古い奏法だそうです）、身体を動かさない演奏スタイルが最も基本であることを熱く語っていらっしゃいました。

このようなことから、両者は全くの別世界の存在ですが、動きを封じて聞き手の想像力に訴えかける理念は同様なのではと気付かされたひとコマでした。

【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】